

令和7年度 第12回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年7月31日(木) 19:00～

場 所:鶴来コミュニティセンター

参加者:10名



◆ 生涯学習継承事業、防災対策事業、福祉・環境づくり事業の三本柱で、役員自らが事業を企画立案して進めています

(参加者)(資料に基づいて説明)

鶴来地区コミュニティの組織と活動内容についてご説明します。組織図をご覧ください。総会の下に役員会、町会長協議会があり、事務局はセンター職員として3名、監事が2名配置されています。役員会の構成は、会長1名、副会長2名、役員17名です。

役員17名は、17町会から必ず1名を出していただく形になっています。各町会から選ばれた方々は、女性会、消防団、寿齢会など地域のさまざまな役を務めた経験がある方が多く、そうした経験を踏まえて構成しています。

事業は大きく三つの柱で進めています。1つ目は生涯学習継承事業(人づくり事業)、2つ目は防災対策事業(安心安全づくり事業)、3つ目は福祉・環境づくり事業(心豊かな地域づくり事業)です。各役員は、3事業のいずれかに必ず所属しています。事務局は事務局長、主任、事務員の3名が担当しています。

鶴来の特徴としては、役員が自ら企画・立案して事業に深く関わっている点が挙げられます。

具体的には里山・野生動物に関する事業や、お天気セミナー、花いっぱい運動などです。花いっぱい運動は事務局職員が計画に沿って支援しつつ、役員が主体となって企画・実施しています。

6月20日には「里山と野生動物」をテーマに、里山の現状とクマなど野生動物と人との関係に

ついて、小谷二郎氏(元石川林業試験場場長)を講師に招いた講演を実施しました。

次に第3回目となる「災害に備えて お天気セミナー～多発する異常気象の原因と対策～」は、8月3日に開催予定です。講師は気象予報士の池津勝教さんで、2013年4月からNHK金沢放送局の気象キャスターとしても出演され、メディアの出演歴も豊富な方です。

三つ目は「秋の花いっぱい運動」で、9月11日を予定しています。地元のフラワーショップ徳田の徳田章さんを講師に迎え、もともと花の盛んな鶴来の特色を継承する事業として実施します。

教育サークルについては、現在鶴来コミュニティでは合計28の教室があり、各サークルは週1回、会議室などを利用して活動しています。

続いて令和6年度の事業一覧表です。先に述べた生涯学習事業や防災事業などを中心に多くの事業に参加していただき、コミュニティの強化を図るための一覧となっています。令和7年度(今年度)の事業については、鶴来地区では市からの交付金約210万円のほか、地区費として各戸から年額700円を負担いただいております、総額約300万円を見込んで計画・実行していきます。

最後に、令和6年度の主だった事業を写真付きで掲載していますので、ご覧ください。公民館時代から受け継いだ事業も多くありますが、今年度は生涯学習・防災・福祉を中心に据えた展開を図っていく考えです。課題もいくつかありますが、以上で私の説明を終わります。皆さまからのご意見をお願いいたします。

◆ 工夫してサロンや健康セミナー、居場所づくりなどの福祉事業を行っています

(参加者)

福祉環境づくり事業では、大きく三つの柱があり、地域独自の事業を継続して推進しています。

一つ目は、鶴来地区にある3つのサロンの活動推進です。各サロンの運営支援や参加者の呼びかけなどを行い、地域での交流の場を維持するよう努めています。

二つ目は、各町内の集会所を対象にした健康セミナーです。つるぎ病院内にある包括支援センター「つるぎ」と連携して出前講座を実施しており、3か所の集会所で毎年テーマを設定し、講師を招いて1時間から1時間半程度の講座を行っています。主に町内の高齢者を対象にした内容で、参加者には好評です。これらの講座をきっかけに、これまで家に閉じこもっていた高齢の方が外に出てきて交流する機会が増えたことも、大きな成果だと受け止めています。今後も継続していきたいと考えています。

三つ目は、鶴来地区独自の取り組みだと思いますが、鶴来別院の和室をお借りして隔月で開催している居場所づくりの活動です。「スペース」という名称で町内に回覧して案内し、来場者同士で自由に話題を出し合ってもらおう場になっています。多いときで約23名、平均すると15名ほどが集まり、互いの立場ややりたいことについて話し合う機会を提供しています。この集まりは自主的に参加する性格のため、継続的に来られる方はここを「居場所」と感じてくださっています。私たち運営側も話の材料を用意しつつ、参加者の意見を引き出して進行しています。

中には昔の音楽を聴きたいという要望もありまして、ご希望の方に昔のCDを貸し出したり、持

参してもらって話題にさせていただくなどの工夫をしており、喜ばれている面もあります。こうした工夫を続けながら、家に閉じこもっている高齢者の方をできるだけ参加していただくことを重要な目的の一つとして、今後も取り組んでいきます。

来年度はコミュニティセンターのホールを活用し、鶴来地区の住民を広く呼び込めるような、より内容の充実した健康セミナーを大学の先生を招いて開催したいと考えています。福祉面から少しでも健康の増進に寄与できるよう動いていく予定です。

◆ 野生動物による被害を抑える効果もある里山整備を進めていただきたいと思います

(参加者)

生涯学習事業として、林業試験場の方を講師にお招きして「里山と野生動物」という講座を開催しました。仕事上でも山に入る機会がありますが、里山を整備してきれいに保てば、クマやイノシシ、サルなどが里に降りてくるのを抑えられる効果は、絶対ではないにしても一定程度期待できると思います。

ただ現状を見ると、山間部では高齢化や過疎化が進み、木が生い茂っていて中に入るのが難しい場所が多くあります。この状況を何とかできないかと考えています。里山整備は市だけの問題ではないと思いますが、市として今後どのように進めていけるか、プランや案があればお聞きしたいです。

(市長)

担い手不足は林業だけの問題ではなく、他分野にも共通しています。山の境界が分からないといった問題もあり、白山市に限らず山林を抱える地域で深刻化しています。一度手入れが途絶え、次に整備するのが非常に難しくなります。これは大きな問題です。

市としても対応に努めています。令和4年8月に崩れた林道はまだ完全に復旧しておらず、順次直しているところです。市内の業者が他市町の災害対応に出向くこともあります。

近隣では能美市、加賀市、小松市などでクマの出没が多く報告されており、市内でも野生動物の出没は増えています。里山の整備については講師の方からも同様のご意見があったのでしょうか。

(参加者)

そうですね。

仕事中でもクマと遭遇することがあり、前を通っていることもあります。里山の整備は対策の一つになるはずなので、大変かもしれませんが、事業として検討していただければと思います。

(市長)

里山の整備に加えて、豪雨災害への対応も急務です。令和4年8月4日の豪雨では鶴来地区の朝日町ですとか、御墓谷川、平等寺川が大きな被害を受けましたね。高橋川の改修は現在陽羽里のあたりまで進めています、さらに対策を進める必要があります。鶴来地区では大谷川からの流入分を速やかに排水する必要があり、そのあたりの対応も進めています。

こうした対応や林道の復旧、山林の整備はいずれも人手不足の影響で進めにくい状況です。人が減ると手が回らなくなってしまうため、人口減少を止めることも重要だと考えています。

◆ 防災訓練や、避難行動についての指針はあるのでしょうか

(参加者)

防災についてですが、白山市内では、松任地域をはじめ各地で防災訓練が行われています。広報で実施されたとの記事を拝見していますが、山が近ければ土砂災害の危険があるなど、地域性に応じた避難のやり方があるのは当然だと思います。

そこでお伺いしたいのですが、白山市として「こういった内容をガイドラインとして防災訓練に取り入れたらどうか」といった統一的な指針はありますか。

(市長)

防災に関する指針は作成しています。ただ、白山市は広いため、地域によって土砂災害のリスクが高い所、美川地区のように河川や海に関するリスクが高い所、白峰では火山対応が重要となるなど、さまざまな違いが出てきます。

(総務部長)

防災ハザードマップや水害ハザードマップを作成し、統一した市としての避難方法や逃げ方をまとめています。災害のタイプや地域差はありますが、ハザードマップの裏面に統一的でやや詳しい避難行動の指針を掲載しています。

統一的な指針のひとつはこのハザードマップかと思います。皆さんに水害ハザードマップを見ていただき、各地区の自主防災組織で勉強会を開く際に、ハザードマップの裏面にある統一指針も併せて確認していただく仕組みを考えているところです。新しく出したばかりで、まだ十分に浸透していない面もありますが、今後の防災訓練などあらゆる機会を活用していただきたいと考えています。

(市長)

地域コミュニティ組織を作っていただきましたので、その中で防災組織を作り、地域特性に応じて防災の内容を調整していただければと思います。市としては備蓄品や避難所の整備、ハザードマップによる避難方法といった一定の共通基盤を整えています。

鶴来地区では獅子吼高原に関係する土砂災害リスクや、手取川の水位上昇など、地域特有の課題があります。令和4年の豪雨では手取川の水位が上がり、十八河原公園まで危険水位に達しました。

また、平等寺川や御墓谷川が合流して高橋川に流れ込む箇所や、月橋の大谷川など、雨が降ると危険になりやすい場所があります。各地区の状況に合わせて、よりきめ細かな防災対策を検討していく必要があります。

◆ 地区の行事などでの防災行政無線の活用を進めたいと思いますが可能ですか

(参加者)

現在、コミュニティの事業やセミナーの案内は、ほとんど回覧板で回っていると思います。しかしせっかく防災行政無線などの手段が整っているのに、もっと身近に感じられるように、積極的に活用できないかと考えています。

日常的には行方不明者の捜索や火事の知らせ、クマの出没情報など多く放送されていますが、地域の行事やイベントの案内にも同じ手段を使ってもらえれば、参加や関心が高まるのではないのでしょうか。防災行政無線の設備を、地域コミュニティの活性化にも役立てたいと思います。

戸別受信機の案内を見たときには、「町内会など地域コミュニティでの情報共有のために」と書かれていました。なので、行政だけが使うという解釈は少し違うのではないかと感じます。たとえ防災用の運用になっていても、案内に書かれている趣旨を踏まえて、可能であれば地域行事などでも活用していきたいと思います。

(市長)

無線は各町会長やコミュニティセンターにも設置されていますか。

(総務部長)

防災行政無線は、町内会単位と、地区単位で電話から放送の録音ができるようになっていますし、コミュニティセンターにも戸別受信機が設置されています。行政側は緊急放送などのためにルールを設けて発信していますが、機能としては町内会ごと、地区ごとに利用が可能です。

ただし、どう使うかについて一定のルールを決めておかないと、何にでも使えるとなって住民の混乱を招く恐れがあります。ですから、どのように使うかを話し合っ、運用ルールを地域で決める

ことは必要だと思います。その上で通常時から活用していくことで、災害時にも役立たせることができると思います。

(参加者)

もうちょっと地区で話し合いをした上で、運用の幅を広げるような方向に進めていきたいですね。

◆ 人口減少に伴い、朝日小学校の児童数がかなり減っています

(参加者)

鶴来女性の会の活動のほか、白山市の主任児童委員として、鶴来の5地区(一ノ宮、鶴来、林、蔵山、館畑)を4人で担当しています。私は鶴来と一ノ宮を担当していますが、林・蔵山・館畑では宅地開発が進み、新しい住宅が次々に建っていて、これからも新生児が増える見込みです。出生数に地域ごとの大きな差があります。

一方、私が担当している鶴来と一ノ宮では、増えているのは鶴来大国西あたりだけです。鶴来水戸町付近でも新築の家は見られますが、それを踏まえても朝日小学校の児童数はとても減少しており、現在2年生は1クラスになっています。1年生は今は2クラスですが、このままでは将来的に1クラスになる見込みです。

広陽小や明光小では教室が不足しており、放課後児童クラブの利用者も増加しています。このような格差を目の当たりにすると、朝日小にももっと子どもがいてほしいと強く感じます。鶴来女性の会としては、地域ボランティアや学校運営協議会を通じて授業支援や各種事業の補助に携わっていますが、活動を通して子どもの少なさを痛感しています。この点について市の方で何か対策があれば伺いたいです。

(市長)

教育委員会では学校適正化のため委員会を設置し、第三者を含めた多様な意見の聴取を始めたところです。特に朝日や白山ろく地域では複式学級が増えており、居住者自体が減少しているのが背景にあります。

白山ろく地域のミライ会議でも常に出る課題は交通インフラの利便性の問題です。例えば鶴来の石川線については北陸鉄道と協議し、金沢市・野々市市・白山市が応分の負担をする上下分離方式で存続できるようにしました。もし路線が維持できなければ高校への通学などで大きな支障が出るため、住環境の確保や交通インフラの整備に工夫を重ねています。

また、二拠点生活の推奨や移住者への補助金、白山ろく地域への助成など、多様な施策も講じています。一方で柴木・部入道地区や知気寺付近など、新たに宅地造成が進んでいる地域もあります。宅地開発は一時的に子どもの数が増えますが、継続しない場合があるという点も踏まえる必要があります。

◆ 校区の再編も検討の余地があるかもしれませんが、難しいこともわかります

◆ 小中学校の生徒数の減少は同級生で活動する祭りの維持にも関わります

(参加者)

朝日小学校のエリアをもう少し広げるような形にして、スクールバスを増やせば生徒数を増やすことができるのではないのでしょうか。

(参加者)

市議の方とも校区について話したことがあります、やはり簡単には変えられないのではという話でした。

現在、明光小、広陽小の人数が増え、北辰中がやはり一気に増えています。鶴来中学校は蔵山地区も一部校区となっていますが、部活で学校の選択ができることもあり、校区外への通学は、北辰中に行く人はいても、鶴来中に来る人は少なく、鶴来中は人数が減っています。

(市長)

入りたい部活動が鶴来中にはなく、北辰中にしかない場合は、生徒が北辰中に進学することはできます。蔵山や森島地内からは北辰中へ行かれる方も結構いらっしゃいますね。

校区の変更となると、地区を分けることになるため、理解を得て変更するのは実際には非常に難しいこととなります。ある時点で「こちらの人数が少ないからこっちに変えましょう」と決めても、数年経てば人数が大きく変動することがあり、人数の増減に合わせて頻繁に校区を変えるのは現実的ではありません。

本来は、地域ごとのコミュニティを形成し、その地区単位で学校と連携していくことが望ましいと考えます。子どもの数に合わせて校区を頻繁に変更するのは難しいので、その地域に住む方が増えることが一番の解決策です。

先ほど申し上げたように、白山ろく側でも同じ問題がよく話題になります。白山市全体では人口は横ばいですが、地区ごとに大きな差があるのも事実です。その差を少しでも解消できないかと、さまざまな取り組みを進めています。

一方で、自治体同士で住民を呼び込むための施策の競争が起きている面もあります。白山市は、0歳から18歳までの医療費無償化を早くから実施したり、給食費無償化や2人目以降の子どもの保育料の無償化などを進めています。他の自治体でも同様の施策が増えており、各自自治体がさまざまな手を打っている状況です。

白山市は住みやすさの評価が高く、鶴来のほうらい祭りや美川ではおかえり祭りなど、祭りがある地区は若い世代が集まりやすい傾向があります。しかし、各地で参加者が減ってきているのも事実のようです。

(参加者)

おっしゃる通り、子どもの数が少なく学年ごとの人数が少ないため、その学年だけでお神輿を担ぐのが難しくなっています。現状では2学年分の人数がないと担げないのではないかという話が出ています。先輩後輩が混ざるより同級生だけで担ぎたいという意向もあります。今後も人数が減少すれば、後々はお神輿の担ぎ手不足という問題は出てくるのかなと思います。

(市長)

例えば美川地区では青年団やラッパ手の代表が女性になったりしています。従来は男性中心だった役割に女性を積極的に入れたり、小学生にラッパを担当させたりと、いろいろな工夫で運営しています。そうした柔軟な対応が今後ますます必要になるかもしれません。

とはいえ、何より鶴来地区に住む方が増えることが最優先です。鶴来地区では大国西が区画整理事業をして、宅地化していますね。

(参加者)

大国西は全体で約180戸入ることができます。現在は約130戸が入居しており、陽羽里が新しくできた影響で新築される方はそちらに流れているため、大国西の新築は落ち着いており、お子さんも大きくなってきています。

(市長)

校区のことなどにいろいろご意見をいただいたので、そこは教育委員会とも共有します。議会でも校区について質問が出ていました。様々な面から考えてみたいと思います。

◆ 校区の再編は子どもの負担も大きいので、長期的な視点を持って定住人口を増やす方向性が大切ではないでしょうか

(参加者)

校区の件で考えていたこととお話します。もし急に校区が変わったら、子どもたちはどう感じるだろうかと想像していました。私自身、小学校のときに蔵山地区である月橋や明島の友達がいたのですが、今は市民大運動会などで校区の関係から一緒に競技に参加できないことがあり、それがとても寂しく感じられます。

校区が変わって小学校が別々になり、新しい友達が増えることを喜ぶ子もいれば、今の友達と離れてしまうことを寂しく思う子もいるでしょう。最近の子どもたちは私たちより敏感なところがあるように思います。だから、単に校区を区切る・まとめるといった発想ではなく、移住してくる人を受け入れる姿勢や環境づくりが大切ではないかと考えます。

鶴来は新しい事業も増えてきており、ほうらい祭りもコロナで一時影響がありましたが、今は収束して観光や集客にもつながっていると、若者の目線でも感じています。まずは移住を検討する方々に「とりあえず鶴来に来てみよう」と思ってもらえるきっかけをつくり、その後「ここはいいまちだ」と感じてもらえるような工夫やコミュニティづくりを行い、移住につなげる、そうした長期的なプロセスが必要だと、今お話を聞きながら思いました。

(市長)

新聞でも報じられていましたが、獅子吼高原では現在、東京科学大学の学生さんが関わってくださっています。市内では、他にも地区の活動やイベントに大学生が関わっている例が増えており、学生たちは自分たちの学びの場としてだけでなく、地域づくりへの参画という観点でも大変貢献してくれています。

こうした大学や学生たちが地域の魅力を発信し、SNSなどで情報発信してくれることで、鶴来の良さが広がっていくことを期待しています。また、商工会など地域の方々も活性化に向けて活動して下さっており、初老会の皆さんが祭りなどの伝統行事を一生懸命つないでくださっていることは、本当にありがたいことです。その熱意が次の世代へつながっていくと思います。

また、「子育てに本当に良い場所だ」というイメージをしっかりとPRしていくことが重要だと考えています。鶴来だけでなく、白山市全域が子育てしやすいまちであることを広く発信していきたいと思えます。

◆ 観光客や鶴来で起業する方などの関係人口や、定住する外国人が増えている実感が あります

(参加者)

鶴来地区では空き家や空き店舗を活用してリフォームし、起業される方がかなり増えています。それに伴って、若い方が経営する店がインスタなどで情報発信をしているケースも多く、お客さんも金沢などから来られています。自転車で回っている方もいますね。

(市長)

関係人口や交流人口は、今、鶴来で大幅に増えていると思います。スポーツバイクで来られる方もいらっしゃいますし、かなり広範囲から訪れている印象です。私も時々インスタグラムで「こんな店ができたな」と見えています。

ただ、起業された方が居住して子どもが増えていくかとなるとハードルはあると思います。若い人にとって鶴来は住みやすい良い所だとは思いますが、どうでしょうか。

(参加者)

昔から住んでいる者としては、やはり住み慣れた土地ですのでいいところだと思っています。先日、バーベキュー大会の手伝いをした際に、初めておいする若い世代や子連れの家族も参加されていました。ただ、その場には参加して下さっても、町内会の手伝いなど積極的に関わってくださる方はあまり多くなかったと感じました。私たちも同じ町内会の住民として、もっと声かけができていればと反省しています。

私たち水戸町青年会では、昨年から声かけを強化していこうと話し合ってきました。先ほどもあったとおり、子どもの減少は深刻で、初老会の人数も年々減っています。集まる人数が少なくなっている現状を踏まえ、地域の行事に参加してもらえるようなまちづくりを進めたいと考えています。祭りは声をかけやすい大きな機会だと思うので積極的に呼びかけていますが、同級生の中には参加をやめておこうと話す人もちらほらいます。

(参加者)

以前に比べて外国の方が住んでいる印象があります。そういう意味では、選ばれているという意味で住みやすい街になってきているのではないのでしょうか。

(参加者)

北陸先端大の方がバスで買い物に來られます。大学のバスが鶴来に停まるので、そこから歩いて買物をされる方が多いです。移住されてきて、住まいは鶴来で外部の企業に勤めている方もかなりいますね。海外からの技能実習生が住んでいるという印象もあります。

学校の関係で見ていると、外国出身の方と日本人のご夫婦のお名前がかなり増えてきているように思います。

そうした方たちが昔からの町の行事に入ってくるのには時間がかかるかもしれませんね。

◆ 組織の会長とセンター長はスムーズな運営のためやむを得ず兼務としています

(参加者)

鶴来地区では、コミュニティセンター長が地域コミュニティ組織の会長を兼務しています。市内の28あるコミュニティのうち、確か6コミュニティで同様に兼務であると聞いています。

なぜ兼務としているかという点、組織上会長がコミュニティセンターに足を運ぶことが求められる一方で、現実には会長をはじめ役員が仕事を抱えていて頻繁に顔を出すのが難しく、連絡や調整がスムーズにいかないケースがあるからです。その結果、意思疎通が滞りやすくなります。

そこで、理想としては役割を分離した方がいいのですが、当面は兼務という形で対応する方向です。将来的にはセンター長を務めた人が会長になるなどの方法も考えられますが、この点は大き

な課題の一つだと考えていますので、ご認識いただければと思います。

◆ **地区でも情報発信に力を入れていきたいと思っていますし、行政でも積極的な発信をお願いします**

(参加者)

地区での地域づくりに対して、令和6年度でこれだけのことをやっていたんだなっていうことを改めて気づかされました。最初に発信に関して弱かったという反省をお聞きして、確かに知らないこともちらほらあったので、今、住んでいる人、若い人も参加しやすいような形で、もうちょっと発信していけたらいいのかなと思いました。そして、これからの事業に来ていただけるような、住んでいただけるような地域づくりにこれからも協力していけたらと思います。

(参加者)

市のイベントについての情報発信にも力を入れていただきたいと思います。コミュニティセンターに問い合わせをいただいても情報がないことがありますので、早めにPRした方が、盛り上がっていいのかなというふうに感じました。また、インターネットはあまり得意でない方もたくさんいらっしゃるので、そんなことも検討がいると思います。

(市長)

各事業やイベントについてのPRはさらに強化しなければならないと思っています。各課はもちろんです。今年シティプロモーション推進課を作って、広報の仕方を工夫していくこととしています。

ここ数年、新しい事業がいくつか始まっています。山城サミットをはじめ、いいとこ白山あさがおマラソンは金沢マラソンと連携していくこととしていますし、自転車イベントであるジオライドハクサンは、民間を中心にした実行委員会で運営しています。いろいろなプロモーションをやっていきましようということで、これからまた検討していきます。

今日は、例えば里山と野生動物、健康のことなど、大変活発に、工夫をしながらいろんな取り組みをされているお話をお聞きして、大変うれしく思います。今後ともまちづくり協議会の取り組みを進めていただいて、市の方でも、いただいたご意見を市政に活かしていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。